

## 「産婦人科」後期研修カリキュラム

- 1 研修医の資格について  
2年間の卒後初期臨床研修を終了した者とする。
- 2 研修内容について  
(1) 医の倫理を体得し、高度の産婦人科専門知識と技術を修得する。  
(2) 産婦人科専門医の受験資格を十分に満足する内容にする。
- 3 研修期間について  
卒後初期研修を終了後の3年間とする。

### I. 一般目標

#### 1) 一般目標1

レベルの高い均質な包括的で全人的な産婦人科診療を実践できる専門医を養成する。

- (1) 産婦人科専門医として、適切な産婦人科の臨床的判断能力を修得する。
- (2) 手術を適切に実施できる能力を修得する。
- (3) 医の倫理に配慮し、産婦人科診療を行う上での適切な態度と習慣を身に付ける。
- (4) 産婦人科学の進歩にあわせた生涯学習を行うための方略の基本を修得する。

#### 2) 一般目標2

産科学および産婦人科診療に必要な産婦人科診療技術を修得する。

- (1) 産婦人科総合カリキュラムとして学習する。
- (2) 産婦人科サブスペシャリティ(周産期医学、婦人科腫瘍学、婦人科内分泌学、生殖医学)に共通する産婦人科の基本的問題解決に必要な基礎的知識、技能および態度を修得する。

### II. 到達目標

- 1) 到達目標1：産婦人科診療に必要な基礎的知識を習熟し、臨床応用できる。

#### 産科

- (1) 局所解剖：産科診療上必要な骨盤内蔵機と乳腺の局所解剖を述べる事ができる。
- (2) 病理学：産科病理学の基礎を理解している。
- (3) 病態生理：周産期疾患(多胎妊娠、妊娠高血圧症候群、常位胎盤早期剥離、子癇など)に必要な病態生理を理解している。
- (4) 輸液、輸血：周産期患者に対する輸液・輸血の適応について理解している。

- (5) 血液凝固と線溶現象：血栓症、汎発性血管内凝固症候群の予防、診断、治療の方法について述べる事ができる。
- (6) 栄養・代謝学  
病態(悪阻、糖尿病合併妊娠など)に応じた必要熱量を計算し、適切な経口栄養、経静脈栄養の投与、管理ができる。  
分娩後の代謝変化を理解できる。
- (7) 感染症  
周産期特有の細菌の知識をもち、抗生剤を適切に選択する事ができる。  
周産期の発熱の鑑別診断ができる。  
抗生物質の合併症を理解できる。
- (8) 周産期疾患の管理：病態別の検査計画と治療計画を立てる事が出来る。
- (9) 産科麻酔学  
会陰縫合などに必要な局所浸潤麻酔の原理と局所麻酔薬の極量を述べる事が出来る。  
脊椎麻酔の原理を述べる事ができる。  
気管内挿管による全身麻酔の適応と母体や胎児への影響を述べる事ができる。
- (10) 新生児管理  
出生時の正常新生児の評価と管理を理解できる。  
出生時の病的新生児の評価と管理を理解できる。
- (11) 救命・救急医療  
母体の失血性ショックを理解できる。  
母体の緊急帝王切開術の適応を理解できる。  
新生児の蘇生術について述べる事ができる。

## 婦人科

- (1) 解剖学：婦人科診療上必要な局所解剖を述べる事ができる。
- (2) 腫瘍学：  
発癌、転移形成および各種癌取り扱い規約について述べる事ができる。  
手術、化学療法、放射線療法について、癌治療ガイドラインにそって述べる事ができる。
- (3) 周術期の病態生理  
周術期管理などに必要な病態生理を理解している。  
手術侵襲の大きさと手術のリスクを理解している。  
周術期患者に対する輸液・輸血の適応について理解している。  
血栓症の予防、診断、治療の方法について述べる事ができる。
- (4) 感染症  
婦人科特有の細菌の知識をもち、抗生剤を適切に選択する事ができる。  
感染症の鑑別診断ができる。  
抗生物質の合併症を理解できる。
- (5) 婦人科内分泌学：婦人のホルモン分泌動態の基礎を理解している。

(6) 生殖医学：生殖医学に必要な基礎的現象を理解している。

不妊症の診断、治療方法を述べる事ができる。

不育症の診断、治療方法を述べる事ができる。

(7) 麻酔学

局所浸潤麻酔の原理と局所麻酔薬の極量を述べる事が出来る。

静脈麻酔の原理と適応、副作用のついて述べる事が出来る。

脊椎麻酔の原理を述べる事ができる。

気管内挿管による全身麻酔の原理を述べる事ができる。

硬膜外麻酔の原理を述べる事ができる。

(8) 集中治療

I C U 収容中の患者の管理と治療について述べる事ができる。

(9) 救命・救急医療

卵巣腫瘍捻転の診断と治療を理解できる。

卵巣出血の診断と治療を理解できる。

子宮出血の診断と治療を理解できる。

2) 到達目標2：必要な検査、処置、麻酔手技に習熟し、臨床応用ができる。

## 産科

(1) 下記の検査手技ができる。

妊婦の超音波検査を自身で実施し、胎児及び胎盤の病態を診断できる。

エックス線検査（骨盤計測）、MRI 検査（妊娠後期）の適応を決定し読影する事ができる。

(2) 子宮外妊娠手術、帝王切開術の管理ができる。

術前術後管理の重要性を理解し、これを行うことができる。

周術期の補正輸液と維持療法を行う事が出来る。

輸血量を決定し、成分輸血を指示できる。

血栓症の予防と治療について述べる事ができる。

産科出血について診断、対処できる。

抗生剤の適正な使用ができる。

(3) 麻酔手技が安全に行うことができる。

局所・浸潤麻酔

脊椎麻酔

(4) 以下の手技を含む産科的クリティカルケアができる。

流産手術（子宮内容除去術）

ダグラス窩穿刺

産科ショックの診断と原因別治療

D I C の診断と治療

## 婦人科

### (1) 下記の検査手技ができる。

超音波検査を自身で実施し、病態を診断できる。

エックス線検査、CT、MRI 検査の適応を決定し、読影する事ができる。

子宮卵管造影の適応を決定し、読影することができる。

### (2) 周術期管理ができる。

術後管理の重要性を理解し、これを行うことができる。

周術期の補正輸液と維持療法を行うことができる。

輸血量を決定し、成分輸血を指示できる。

血栓症の予防と治療について述べる事ができる。

抗生剤の適正な使用ができる。

### (3) 麻酔手技が安全に行うことができる。

局所・浸潤麻酔

静脈麻酔

脊椎麻酔

### (4) 婦人科内分泌疾患の診断・治療ができる。

無月経の鑑別診断・治療ができる。

機能性子宮出血の鑑別診断・治療ができる。

高プロラクチン血症の鑑別診断・治療ができる。

### (5) 以下の手技を含む産婦人科的クリティカルケアができる。

子宮腔内全面搔爬術(機能性子宮出血の治療と診断)

血管確保と輸液療法

婦人科急性腹症とショックの診断と原因別治療

抗癌剤と放射線療法の有害事象に対処する事ができる。

### (6) 産婦人科系サブスペシャリティ(婦人科腫瘍学、婦人科内分泌学、生殖医学)の初期治療ができ、専門医への転送の必要性を判断することが出来る。

## 3) 到達目標3：一定レベルの手術を適切に実施できる能力を修得し、その臨床応用が出来る。

産婦人科の包括される下記領域の手術を実施する事が出来る。( )内の数字は術者または助手として経験する各領域の手術手技の最低症例数を示す。

## 産科

流産手術(10 例)

子宮外妊娠手術(5 例)

帝王切開術(30 例)

## 婦人科

子宮腔内全面搔爬術(10 例)

卵巣嚢腫摘除術(10 例)

付属器摘除術(10例)  
腹腔鏡下手術(10例)  
腹式単純子宮全摘術(10例)  
腔式単純子宮全摘術(10例)

#### 4) 到達目標4

産婦人科診療を行ううえで、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。

- (1) 産婦人科スタッフと協調したグループ診療を行う事ができる。
- (2) コメディカルスタッフと協調・協力してチーム医療を実践することができる。
- (3) 産婦人科診療における適切なインフォームドコンセントを得る事ができる。
- (4) ターミナルケアを適切に行う事ができる。
- (6) 研修医や学生などに、産婦人科診療の指導をする事ができる。
- (7) 知識が不確実なときや判断に迷う時は、指導医や文献などの教育資料を活用する事ができる。

#### 5) 到達目標5

産婦人科学の進歩に合わせた生涯学習を行う方略の基本を修得し実行できる。

- (1) カンファレンス、その他の学術集会に出席し、積極的に討論に参加する事ができる。
- (2) 学術集会や学術出版物に、症例報告や臨床研究の結果を発表することができる。
- (3) 資料の収集や文献検索を独力で行う事ができる。

### III. 修練方略および評価方法

平成 16 年およびそれ以降に医師免許を取得した者は、新医師卒後臨床研修の後、当院において通算 3 年以上の産婦人科の臨床研修を終了し、少なくとも同期間、日本産科婦人科学会の会員であった場合、日本産科婦人科学会の専門医の申請をすることができる。